

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成17年8月25日(2005.8.25)

【公開番号】特開2004-3682(P2004-3682A)

【公開日】平成16年1月8日(2004.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-001

【出願番号】特願2002-135413(P2002-135413)

【国際特許分類第7版】

F 2 4 C 7/02

【F I】

F 2 4 C 7/02 3 3 0 A

F 2 4 C 7/02 3 3 0 D

F 2 4 C 7/02 5 1 1 Q

【手続補正書】

【提出日】平成17年2月18日(2005.2.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被加熱物を収容する箱型形状の加熱室と、前記加熱室内に視野を有し前記視野内の赤外線量を検知する赤外線センサと、前記加熱室に高周波を供給するマグнетロンとを含む高周波加熱装置であって、

前記赤外線センサを支持するための部材であって、少なくとも一部が前記加熱室を構成する箱型形状の内部に位置する、赤外線センサ支持部材をさらに含むことを特徴とする高周波加熱装置。

【請求項2】

前記赤外線センサ支持部材は、前記加熱室の上部に設置されることを特徴とする請求項1に記載の高周波加熱装置。

【請求項3】

前記加熱室の上面に設置された、前記マグネットロンの供給する高周波を当該加熱室内に拡散させる拡散アンテナと、

前記加熱室内であって、前記拡散アンテナの下方に設けられたカバーとをさらに含み、前記カバーの少なくとも一部は、前記赤外線センサ支持部材に下方から支持されることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の高周波加熱装置。

【請求項4】

前記加熱室は、その後方部分を構成する面である後面を備え、

前記赤外線センサ支持部材は、前記加熱室の後面上であって、前記加熱室の左右方向での中心に設置されていることを特徴とする請求項1～請求項3のいずれかに記載の高周波加熱装置。

【請求項5】

前記赤外線センサを移動させるための赤外線センサ移動制御部をさらに含み、

前記赤外線センサ支持部材は、前記加熱室内から、前記赤外線センサが移動していることを視認可能な孔を形成していることを特徴とする請求項1～請求項4のいずれかに記載の高周波加熱装置。

【請求項6】

前記マグнетロンに電力を供給するための回路部材と、
前記マグнетロンを冷却するためのファンとをさらに含み、

前記マグнетロン、前記回路部材、および、前記ファンは、前記加熱室の外に設置され

、
前記マグнетロン、前記回路部材、前記ファン、および、前記赤外線センサ支持部材は
、前記加熱室に対して同じ方向に設置されることを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 5 のいずれかに記載の高周波加熱装置。

【請求項 7】

前記加熱室の前面を開閉するためのドアをさらに備え、
前記加熱室は前記ドアに対向する後面を有し、また前記加熱室の後面は、前記赤外線センサを支持する前記赤外線支持部材を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の高周波加熱装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明のある局面に従った高周波加熱装置は、被加熱物を収容する箱型形状の加熱室と
、前記加熱室内に視野を有し前記視野内の赤外線量を検知する赤外線センサと、前記加熱室に高周波を供給するマグネットロンとを含む高周波加熱装置であって、前記赤外線センサを支持するための部材であって、少なくとも一部が前記加熱室を構成する箱型形状の内部に位置する、赤外線センサ支持部材をさらに含むことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

さらに、本発明の高周波加熱装置は、前記加熱室の前面を開閉するためのドアをさらに備え、前記加熱室は前記ドアに対向する後面を有し、また前記加熱室の後面は、前記赤外線センサを支持する前記赤外線支持部材を備えたことを特徴とする。

【手続補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

これにより、外線センサに付着した食品の汁等をふき取ろうとするとき、ユーザは、前方から加熱室に手を入れ、そのままその手を後方に伸ばすことにより赤外線センサの清掃が行なえ、高周波加熱装置の使い勝手が良くなる。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】削除

【補正の内容】